

第14回日本ゴム協会科学技術奨励賞審査報告

日本ゴム協会科学技術奨励賞委員会
委員長 山本 勝宏

日本ゴム協会科学技術奨励賞は、本会創立50周年を記念して設定された日本ゴム協会科学技術奨励を見直し、2008年よりゴムおよびプラスチックに関連する科学および技術の進歩発展に寄与する研究または調査を行っている研究者（本会会員）に毎年1件、副賞20万円を授与するものである。

第14回日本ゴム協会科学技術奨励賞の募集要項を2021年の日本ゴム協会誌9月号から11月号に会告として発表し、11月30日までに1件の応募（推薦）があった。

2022年2月28日に、2021年度第1回日本ゴム協会科学技術奨励賞委員会を開催し、第14回日本ゴム協会科学技術奨励賞受賞候補者選定について慎重に審議した。その結果、下記の研究題目で推薦された候補者を第14回日本ゴム協会科学技術奨励賞受賞候補者とし、理事会にて承認された。

受賞者：宇野 貴浩 氏（三重大学）

研究の名称：リチウムポリマー二次電池用の高性能高分子固体電解質材料の創製

受賞理由：

リチウムポリマー二次電池用の高性能な固体電解質材料の開発が望まれている。本研究者は、さまざまな一次構造の高分子の精密合成および機能開発に関して豊富な実績を持ち、高分子固体電解質材料について精力的に研究を進めている。特に、高分岐ポリマー（HBP）を主材料とし、非晶質性を有し、多数の末端鎖が組み込まれたHBPを合成し、高分子の運動性の制御によって材料の機械的強度とのバランスをとることに成功した。この材料は幅広い温度での高い伝導性を示す高分子固体電解質であり、今後の研究開発の進展により、実用的なりチウムイオンポリマー二次電池の実現も期待される。

以上のように、同氏の研究成果は、高分子科学技術の発展に寄与するだけでなく、ゴムおよびその周辺領域に関連する科学・技術に関する進歩発展に貢献できる可能性がある。そのため、本奨励賞の趣旨に合致するものと考え、日本ゴム協会科学技術奨励賞を授与することを決定した。